

多頭飼育崩壊について ～福祉の視点から～

今月

は 社会福祉士 佐藤 綾香 です

多数の動物を抱え適切に飼育管理が出来なくなってしまう『多頭飼育崩壊』が全国的な問題になっています。

多頭飼育崩壊は、経済的困窮により不妊去勢の手数料が支払えない、愛着や寂しさからペットを手放せずに数が増えるなど様々な要因で発生し、飼い主やペットに影響が生じるだけではなく、悪臭や不衛生問題など周辺地域にも悪影響を及ぼします。このようなことにならないように、次の点に留意し予防に努めていくことが重要です。

- むやみに繁殖させず、自分が飼育できる数を超えないようにしましょう。
…不妊去勢手術などの繁殖制限措置もとても大切です。
- 最後まで責任を持って飼えるかしっかりと考えましょう。
…10～15年後の状況を想像して、飼う・飼わないの判断をしましょう。

…今回は、福祉の現場からよくある事例について考えてみたいと思います…

飼い主の傾向

多くは、認知症や精神疾患などで判断力が低下している方々であり、ペットを飼育するための必要な環境を整えたり、治療・処置（不妊去勢手術等）を受けさせることが難しいため、結果として多頭飼育崩壊に陥ってしまうという特徴があります。



多頭飼育崩壊はセルフネグレクトの一種です

多頭飼育崩壊はセルフネグレクトの一種といわれています。認知症や精神疾患等の方々は、多頭飼育崩壊の中においても、問題を問題と感ぜられず、自ら助けを求めることをしつづける傾向がとて強いため、気が付いたら状況がどんどん悪化し、飼い主、ペット共に衰弱してしまっているという悪循環となります。

セルフネグレクトとは

“自己放任・自己放棄”と言われ、生活環境や栄養状態が悪化しているのに、それを改善しようという気力を失い、周囲に助けを求めない状態を指します。



問題に陥らないために…

この問題の解決は非常に難しいものです。認知症や精神疾患等の方は自分自身で安心・安全な管理に努めていくことが難しいため、飼い主だけではなく、家族等周囲の人がペットの飼育について効果的な方法を考え、支えてあげることも大切だと思います。

